

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	3-2-1	分類	共通	担当課	業務課、輸送課、安全推進課、施設課	戦略	まちづくりへの貢献	年度	R4	
取組	まちづくりとの連携・社会への貢献			個別取組	バリアフリーの推進					
概要	仙台市交通局バリアフリー特定事業計画(※1)に基づき、誰もが利用しやすい、安全で安心なバリアフリー空間の整備に向けて、高齢者団体、障害者団体との意見交換を継続的にを行いながら、市バス及び地下鉄の施設・設備、車両等のハード面及びバリアフリーに関する職員教育、啓発活動等のソフト面の両面についてバリアフリー化を推進していきます。									
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
予定	バス停上屋やベンチ・電照式標識の設置									
	職員のバリアフリー教育の実施等									
	意見交換とアンケートを隔年で実施									
	バリアフリー施設整備(第3期前期計画)					バリアフリー施設整備(第3期後期計画)				
これまでの取組 み状況	【バス停上屋やベンチ・電照式標識の設置】 ・上屋:15箇所(内 広告付き上屋14箇所) ・ベンチ:3箇所 ・電照式バス停留所:5箇所									
	【バリアフリー意見交換会】 ・令和3年度は、仙台市交通局バリアフリーアンケートを老人クラブ連合会及び障害者団体に依頼し、集計結果を取りまとめ、各職場に展開した。									
	【バリアフリー施設整備(第3期前期計画)】 (◆2-2-7シートに関連記載あり)									
	【職員のバリアフリー教育】 ・バス運転者採用時教習や接客接遇研修時に、バリアフリーに対する職員教育を実施 ・令和3年度は仙台市社会福祉協議会の協力の基、鉄道両部係長以下の職員を対象にサービス向上研修(バリアフリー)をWeb会議形式で5日間実施 (◆2-1-1シートに関連記載あり)									

【年度計画及び実績】

課題	○バス停留所、上屋等設置関係 【課題】設置箇所を適切に選定すること 【改善策】バス待ち環境やお客さまのご利用状況・ご要望等を確認して優先順位を検討する。それを基に各年度で設置箇所を選定する。		
実施内容	・バス停留所上屋等の増設を着実に実施しバリアフリーを推進する。 ・バス運転者採用時教習やその他職員研修時に、バリアフリー化に対する職員教育を実施する。 ・職員の接客や乗客のマナー等に関する意見交換会を実施し、今後の事業に活かす。 ・地下鉄関係職員に対し、バリアフリーを含めたサービス向上研修を実施する。 ・前年度の隙間調整材設置工事で得られた知見を活かし、着実に工事をすすめる。	数値目標	・上屋8か所設置(内、広告5か所) ・電照バス停留所5か所設置
	予定	実績	
上期	・～9月 広告付き上屋設置箇所選定 関係公官庁との協議 広告付き上屋設置工事 ・～9月 現場確認・設置箇所の選定(広告付き上屋以外)	【バリアフリー意見交換会】 ・9月2日 バス・地下鉄のバリアフリーに関し、障がい者団体と意見交換会を仙台市福祉プラザにて実施(老人クラブ連合会にはアンケートを実施)。出された質問・回答等議事結果は各職場に展開。 【バス停上屋やベンチ・電照式標識の設置】 ・～9月 広告付き上屋設置箇所選定 関係公官庁との協議 ・～9月 現場確認・設置箇所の選定(広告付き上屋以外) 【職員のバリアフリー教育】 ・接客接客向上(CS)研修の実施(前期6回実施)	
下期	・未定 高齢者団体、障害者団体との意見交換の実施 ・～3月 設置工事(広告付き上屋含む)、使用開始	【バス停上屋やベンチ・電照式標識の設置】 ・～3月 設置工事(広告付き上屋含む)、使用開始 【職員のバリアフリー教育】 ・接客接客向上(CS)研修の実施(後期4回実施) ・2月22日 仙台市社会福祉協議会の協力の基、鉄道両部係長以下職員で令和3年度未受講者(43名)を対象にサービス向上研修(バリアフリー)をWeb形式で実施。	
定期的な取り組み	・年1回以上の定期点検(上屋・ベンチ)、清掃 ・お客さまのご利用状況やご要望の確認 ・設置事業者との新規設置工事の調整(広告付き上屋)	・年1回以上定期点検(上屋・ベンチ)、清掃を実施した。 ・お客さまのご利用状況やご要望の確認した。 ・設置事業者との新規設置工事の調整(広告付き上屋)を実施した。	

【令和4年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	【バス停上屋やベンチ・電照式標識の設置】 ・広告付き上屋は、設置事業者都合で4か所の設置に留まった。 ・交通局設置の上屋は、入札不調により1か所に留まった。 ・電照バス停留所は予定通り5か所設置した。 【職員のバリアフリー教育】 ・バス運転者採用時教習や接客接客研修時に、バリアフリー化に対する職員教育を実施した。タイムリーな課題については点呼時及び「接客だより」を発行し周知を行った。 ・地下鉄職員向けにサービス向上研修を計画通り行った。 【バリアフリー意見交換会】 ・高齢者団体、障害者団体との意見交換会を行った。	数値目標の達成状況	・上屋5か所設置(内、広告4か所) ・電照バス停留所5か所設置
次年度に向けて	・バリアフリーに関する職員教育、啓発活動のソフト面についてもバリアフリー化を推進し、研修等次年度も取り組んでいく。 ・仙台市交通局バリアフリーアンケートは、隔年実施の意見交換会及びお客様の声等により意見反映は十分可能なことから、中間年実施アンケートの有無について検討する。 ・広告付き上屋は、設置事業者都合で目標未達の状況が続いているため、設置事業者との協議を重ねていく。				

【備考】

※1 仙台市交通局バリアフリー特定事業計画についてはこちら。
[仙台市交通局ウェブサイト「安全・安心への取組み 交通バリアフリーへの取組み」](#)

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	3-2-2	分類	共通	担当課	経営企画課	戦略	まちづくりへの貢献			年度	R4
取組	まちづくりとの連携・社会への貢献				個別取組	福祉施策への貢献					
概要	高齢者や障害のある方等の公共交通利用促進に貢献します。 【福祉割引】 障害者手帳をお持ちの方等が、係員に手帳を提示することなく、自動的に福祉割引(※1)が適用された運賃をお支払いいただける福祉割引icscaを引き続き発行します。また、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方に対して割引の拡充を図っていきます。 【敬老乗車証・ふれあい乗車証】 敬老乗車証(※2)、ふれあい乗車証(※3)を引き続き市バス・地下鉄でご利用いただけるようにします。										
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
予定	・ミライID開始	ミライID取扱いに係る対応									
	福祉割引用icscaの運用										
	敬老乗車証・ふれあい乗車証に関する関係部署との連携										
これまでの取組み状況	福祉割引の拡充や、敬老乗車証、ふれあい乗車証、福祉割引用icscaの継続運用によって、高齢者や障害のある方の公共交通利用促進に貢献してきた。令和3年度は、精神保健福祉手帳をお持ちの方の割引内容を拡充(手帳の発行自治体を問わないこととし、さらに定期券割引や介護人割引を新設)また、スマートフォンで障害者手帳の情報を開示できるアプリ「ミライID」(※4)の取り扱いを開始した。										

【年度計画及び実績】

課題	・ミライIDとマイナポータルとの連携が可能となる障害者手帳が、令和4年2月より、療育手帳にも拡大することとなったが、お客様の居住自治体により、連携が可能となる時期が異なるため(仙台市は令和4年6月予定)、状況を確認し、適宜対応する必要がある。 ・仙台市が敬老乗車証やふれあい乗車証の制度見直しを行った場合には、適宜対応する必要がある。		
実施内容	・ミライID(※4)について、関係部署と連携し、対象者の拡充等の情報収集に努めるとともに、必要な対応を行う。 ・福祉割引用icscaの継続運用	数値目標	
	予定	実績	
上期	6月～ 仙台市が発行する療育手帳について、ミライIDとマイナポータルの連携が可能となったことを確認する。	6月 仙台市が発行する療育手帳について、ミライIDとマイナポータルの連携が可能となったことを確認。	
下期		1月 交通局ウェブサイト上で福祉割引の案内ページを検索しやすくするため、構成を見直した。	
定期的な取組み	・ミライIDについて、関係部署からの情報収集に努めるとともに、必要な対応を行う。 ・敬老乗車証、ふれあい乗車証について、関係部署との連携の上、必要に応じてあり方の検討に参画し、対応する。 ・福祉割引用icscaの継続運用	・ミライIDについて、関係部署からの情報収集に努めた。 ・敬老乗車証、ふれあい乗車証について、関係部署との連携の上、必要に応じてあり方の検討に参画し、対応した。 ・福祉割引用icscaの継続運用	

【令和4年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	仙台市が発行する療育手帳についてもミライIDとマイナポータルの連携が可能になったことを確認した。	数値目標の達成状況	
次年度に向けて	引き続き高齢者や障害のある方等の公共交通利用促進策を検討する。				

【備考】

※1 「福祉割引」とは、障害者手帳等をお持ちの方の割引制度です。詳しくは、下記リンクよりご確認ください。

※2 「敬老乗車証」とは、70歳以上でご希望の方にお渡ししている、仙台市内の市バス・地下鉄・宮城交通バスで利用できるカードのことです。

※3 「ふれあい乗車証」とは、各種障害者手帳をお持ちで、障害の等級・程度の要件に該当する方が、仙台市内の市バス・地下鉄・宮城交通バスで利用できる乗車証のことです。詳しくは、下記リンクよりご確認ください。

※4 「ミライID」とは、株式会社ミライが運営する障害者手帳アプリです。仙台市交通局では令和3年4月1日より、ミライIDのうち「マイナポータル」との連携が完了しているものを障害者手帳としてお使いいただけます。詳しくは下記リンクよりご確認ください。

[仙台市交通局ウェブサイト「小児運賃・福祉割引について」](#)

[仙台市ウェブサイト「敬老乗車証」\(外部サイトを表示します\)](#)

[仙台市ウェブサイト「ふれあい乗車証\(バス・地下鉄の無料乗車証\)の交付」\(外部サイトを表示します\)](#)

[仙台市交通局ウェブサイト「令和3年4月1日から障害者手帳アプリ「ミライID」の取扱いを開始します」](#)

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組概要】

番号	3-2-3(バス)	分類	共通	担当課	経営企画課、業務課、輸送課	戦略	まちづくりへの貢献	年度	R4	
取組	まちづくりとの連携・社会への貢献				個別取組	観光施策への貢献				
概要	来訪者向けの公共交通施策の実施や大規模なイベント開催時等の公共交通利用促進に貢献します。 【来訪者向けの公共交通施策の実施】 インバウンド等対応 仙台市を訪れる多様な外国人のお客さまに必要な情報を提供できるよう、交通局ウェブサイト及び広報資料における多言語表記の充実や「やさしい日本語」の活用を検討していきます。また、車内や窓口において、外国人のお客さまに必要な情報を伝えられるよう、研修を実施するとともに、音声翻訳機による案内サービスを提供します。 利便性の高い乗車券制度への参加 仙台及びその周辺の観光地を含むエリア内で複数の交通機関が乗り放題となる、「仙台まるごとバス」(※1)「SENDAI AREA PASS」(※2)に引き続き参加することで、旅行者が公共交通を利用する際の利便性向上を図ります。 【大規模イベント対応】 仙台七夕まつり期間における地下鉄臨時ダイヤの設定や、SENDAI光のページェント開催時等における観光シティループバス「るーぶる仙台」の夜間特別運行等、イベント時の需要に応じた運行を継続し、利用を呼び掛けていきます。									
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
予定	観光施策と連携した取組の検討・実施 停名英語表記変更・ご利用案内リンク方法検討・導入 どこバス仙台等の英語対応の検討 仙台まるごとバス／SENDAI AREA PASSへの参画									
これまでの取組み状況	【令和3年度】 ・仙台駅西口バスターミナル案内所における音声翻訳機による案内サービスの提供。 ・るーぶる仙台「光のページェント号」の運行。 ・バス停留所名称英語対応(電照式44箇所)。 ・令和3年4～9月開催の東北デスティネーションキャンペーンに合わせた、「TOHOKU MaaS」における「デジタル版仙台まるごとバス」の発売に参画した。									

【年度計画及び実績】

課題	【どこバス仙台】英語表記対応ができていないため、県内他事業者と同様の英語表記の対応を行うことや、英語表記に対応しているプラットフォーム(GoogleMapなど)への運行情報の提供することを検討する。 【仙台まるごとバス】仙台MaaSへの早期搭載の実現。 【イベント時の運行】「光のページェント号」について、新型コロナウイルスの影響を見極めた上で運行の是非を判断する必要がある。		
実施内容	{多言語対応} ・オープンデータ基準にあわせたバス停名へ表記を変更する。 ・リニューアルされるご利用案内HP(4カ国語版)にリンクする二次元コードをバス停留所に掲示する。 ・仙台駅西口バスターミナル案内所に音声翻訳機を配備する。 ・どこバス仙台の英語対応について、実施可能な手段の調査を行う。 【仙台まるごとバス】 ・仙台まるごとバス／SENDAI AREA PASSへの参画 ・仙台まるごとバス運営協議会において、PR手法の最適化等を提案する。 【イベント時の運行】 ・るーぶる仙台「光のページェント号」実施に向けて仙台市観光課と協議する。	数値目標	・仙台MaaSに搭載している3券種について、多言語化対応(英語・簡体字・繁体字・韓国語)を行う。 ・バス停留所名の英語表記の変更を実施する。(電照式80か所)
	予定	実績	
上期	{仙台まるごとバス} ・5月 仙台まるごとバス運営協議会総会での提案 {多言語対応} ・～9月 電照式バス停留所英語表記の継続実施 ご利用案内HPにリンクする二次元コード掲示物のデザインや設置場所を検討 どこバス仙台の英語対応に向けた調査	{仙台まるごとバス} ・6月 総会において前年度からの各社提案が反映され、令和4年度はウェブによるPRをより重視した予算配分となった。 {多言語対応} ・6月末 仙台MaaSに搭載している3券種について、多言語化(英語・簡体語・繁体字・韓国語)対応済み。 ・～9月 電照式バス停留所英語表記の継続実施 どこバス仙台の英語対応に向けた事業者との調整	
下期	{イベント時の運行} ・11～12月 「光のページェント号」運行について観光課と協議 {多言語対応} 電照式バス停留所英語表記の継続実施 ご利用案内HPにリンクする二次元コード掲示物を作成・導入 どこバス仙台の英語対応への調査	{イベント時の運行} ・12月 るーぶる仙台「光のページェント号」運行(計6日間) {多言語対応} ・どこバス仙台の英語対応実施 ・3月 交通局ウェブサイトについて、Google翻訳による多言語化対応を行った(◆1-2-3シートに関連記載有)	
定期的な取り組み	・音声翻訳機を用いた案内サービスの実施 ・仙台まるごとバス／SENDAI AREA PASSへの参画	・音声翻訳機を用いた案内サービスの実施 ・仙台まるごとバス／SENDAI AREA PASSへの参画	

【令和4年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	・どこバス仙台の英語対応を実施した。 ・仙台MaaSに搭載している3券種について、多言語化(英語・簡体語・繁体字・韓国語)対応した。 ・交通局ウェブサイトについて、Google翻訳による多言語化対応した。 ・仙台市と協議し、るーぶる仙台「光のページェント号」を運行した。	数値目標の達成状況	・仙台MaaSに搭載している3券種について、多言語化対応(英語・簡体字・繁体字・韓国語)を実施した。 ・バス停留所名の英語表記の変更を実施した。(電照式32か所)
次年度に向けて	・バス停留所名の英語表記の変更を引き続き実施する。 ・るーぶる仙台の特別運行の実施内容について仙台市と協議する。				

【備考】

※1 「仙台まるごとバス」とは、仙台・松島・松島海岸・山寺・白石駅区間のJR、仙台空港鉄道、るーぶる仙台、仙台市バス、仙台市地下鉄の全線、宮城交通の仙台～秋保大滝路線、阿武隈急行の槻木～あぶくま駅区間が2日間乗り放題のフリー切符です。 仙台圏交通事業者等で構成される仙台まるごとバス運営協議会によって運営されています。 【仙台まるごとバス】(外部サイトを表示します) ※2 「SENDAI AREA PASS」とは、仙台エリアを訪れる訪日外国人旅行者向けのフリー切符です。 仙台まるごとバスと同じエリアが一日乗り放題となります。 【SENDAI AREA PASS】(外部サイトを表示します)				
--	--	--	--	--

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	3-2-3(地下鉄)		分類	共通		担当課	経営企画課、営業課、駅務サービス課、運転課		戦略	まちづくりへの貢献		年度	R4							
取組	まちづくりとの連携・社会への貢献					個別取組	観光施策への貢献													
概要	来訪者向けの公共交通施策の実施や大規模なイベント開催時等の公共交通利用促進に貢献します。 【来訪者向けの公共交通施策の実施】 インバウンド等対応 仙台市を訪れる多様な外国人のお客さまに必要な情報を提供できるよう、交通局ウェブサイト及び広報資料における多言語表記の充実や「やさしい日本語」(※1)の活用を検討していきます。また、車内や窓口において、外国人のお客さまに必要な情報を伝えられるよう、研修を実施するとともに、音声翻訳機による案内サービスを提供します。 利便性の高い乗車券制度への参加 仙台及びその周辺の観光地を含むエリア内で複数の交通機関が乗り放題となる、「仙台まるごとパス」(※2)、「SENDAI AREA PASS」(※3)に引き続き参加することで、旅行者が公共交通を利用する際の利便性向上を図ります。 【大規模イベント対応】 仙台七夕まつり期間における地下鉄臨時ダイヤの設定や、SENDAI光のページェント開催時等における観光シティーループバス「るーぷる仙台」の夜間特別運行等、イベント時の需要に応じた運行を継続し、利用を呼び掛けていきます。																			
年次計画	R3		R4		R5		R6		R7		R8		R9		R10		R11		R12	
予定	各種研修の実施																			
	イベント時の需要に応じた臨時ダイヤの設定																			
これまでの取組み状況	・令和3年度はオリンピック・パラリンピックに合わせて、外国人旅行者を想定した駅係員全員に「やさしい日本語」の内部研修を実施した。(◆4-2-2-シートに関連記載有) ・外国人のお客さまに必要な情報を、タブレット(翻訳アプリ)や主要な駅に配置している音声翻訳機を活用し案内サービスを提供している。 ・令和3年4～9月開催の東北デスティネーションキャンペーンに合わせた、「TOHOKU MaaS」における「デジタル版仙台まるごとパス」の発売に参画した。																			

【年度計画及び実績】

課題	外国人のお客様に必要な情報を的確に伝えられるようやさしい日本語研修や外国語研修を継続的に実施していく。		
実施内容	外国人のお客様に対し分かりやすい言葉の使い方を習得するため、やさしい日本語研修や外国語向上研修を継続的に実施する。	数値目標	駅務員全員が年1回やさしい日本語研修や外国語向上研修を実施する。
	予定		実績
上期	4～6月 やさしい日本語研修や外国語向上研修の方法を検討		6月3日 駅務助役3名が外国人接客研修・やさしい日本語講座を受講した。下期のOJTに活かしていく予定。 8月5日 仙台七夕花火祭開催に伴う増便を行った。
下期	1～3月やさしい日本語研修や外国語向上研修(OJTも可)を実施予定		・3月6日～20日 駅務員全員を対象に、やさしい日本語研修(自主研修)を実施した。 3月 交通局ウェブサイトについて、Google翻訳による多言語化対応を行った(◆1-2-3シートに関連記載有)
定期的な取組み	タブレットや音声翻訳機による案内サービスの提供を引き続き実施する。		タブレットや音声翻訳機による案内サービスの提供を引き続き実施した。

【令和4年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	・やさしい日本語を理解するとともに、タブレット及び翻訳機を各窓口へ配置し、外国人のお客様との意思疎通を図れるよう取り組んだ。 ・七夕花火時に増便を行った。 ・交通局ウェブサイトについて、Google翻訳による多言語化対応した。	数値目標の達成状況	
次年度に向けて	・交通局ウェブサイトにおけるGoogle翻訳について、対象言語の拡充を行う。 ・次年度以降も、外国人のお客様との意思疎通を図るための取り組みであるやさしい日本語研修などを継続する。 ・緑化フェアや七夕花火などのイベントの需要に応じたダイヤ設定を継続していく。				

【備考】

※1「やさしい日本語」とは、普通の日本語よりも、簡単で外国人にもわかりやすい日本語のことです。 ゆっくり、はっきりと話し、難しい言葉は、簡単な言葉や表現に言い換えます。また、一文を短くし、です・ます調で話します。 ※2 「仙台まるごとパス」とは、仙台・松島・松島海岸・山寺・白石駅区間のJR、仙台空港鉄道、るーぷる仙台、仙台市バス、仙台市地下鉄の全線、宮城交通の仙台～秋保大滝路線、阿武隈急行の槻木～あぶくま駅区間が2日間乗り放題のフリー切符です。仙台圏交通事業者等が構成される仙台まるごとバス運営協議会によって運営されています。 「仙台まるごとパス」(外部サイトを表示します) ※3 「SENDAI AREA PASS」とは、仙台エリアを訪れる訪日外国人旅行者向けのフリー切符です。仙台まるごとパスと同じエリアが一日乗り放題となります。 「SENDAI AREA PASS」(外部サイトを表示します)	
--	--

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	3-2-4	分類	共通	担当課	経営企画課、業務課、営業課	戦略	まちづくりへの貢献			年度	R4
取組	まちづくりとの連携・社会への貢献				個別取組	MaaSの推進					
概要	モビリティ全体をサービスとして捉え、目的地までのルートや移動手段、さらには街なかの飲食・物販店、イベント等の検索・予約・決済等に至るまで、スマートフォンのアプリ等で一括して提供する仕組みであるMaaS(※1)について、関係機関とともに推進していきます。										
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
予定	試験導入 仙台MaaS参画継続										
	TOHOKU MaaS参画										
	新券種(実証実験含む)の検討・実施										
これまでの取組み状況	各事業者が開発するMaaSの仕組みを活用し、るーぶる一日乗車券、るーぶる地下鉄共通一日乗車券などの一日乗車券のモバイルチケット化を進めている。また、「120円パッ区一日乗車券」の実証実験としての販売を通じ、乗車券のオンライン購入のニーズなど調査検討を行うとともに、搭載券種について認知度の向上の取り組みを関係機関とともに推進している。 【令和3年度】 ・仙台MaaS(※2)において、新券種「120円パッ区一日乗車券」の実証実験を実施(◆2-1-3、3-1-2に関連記載あり) ・仙台MaaS参画(120円パッ区一日乗車券、るーぶる仙台一日乗車券等) ・TOHOKU MaaS(※3)参画(るーぶる仙台一日乗車券、仙台まるごとバス等)										

【年度計画及び実績】

課題	仙台MaaSでの販売枚数を増加させるために、搭載券種について認知度の向上が必要。								
実施内容	・TOHOKU MaaSへの参画。 ・仙台MaaS運営委員会に引き続き参画するとともに、「仙台まるごとバス」等既存券や新券種の搭載を検討・実施する。 ・仙台市と連携し、仙台MaaSで引き続き乗車券を販売するとともに、多様な媒体での紹介やイベントとの連携等により認知度の向上を図ることで販売枚数の増加につなげる。				数値目標	・るーぶる一日乗車券について、通常の販売とMaaSでの販売を合わせてR3年度以上の枚数を販売する。 ・MaaSでの販売枚数についてR3年度を上回る。			
	予定					実績			
上期	【新券種】 ・6月～9月 新券種の検討 【既存券種(仙台まるごとバス等)】 ・4～9月 TOHOKU MaaS、仙台MaaS参画の調査検討					・5月～9月 仙台MaaS上で下記の券種を販売することを検討 【令和4年度実証実験】地下鉄一日乗車券(せんくらと連携) ⇒9月30日～10月2日において販売 【令和5年度販売】全国都市緑化フェア仙台東部周遊乗車券 ⇒R5年4月～6月において販売予定 ・6月～ TOHOKU MaaSにて仙台まるごとバスを販売			
下期	【新券種】 ・10月～12月 仙台MaaS搭載に係るシステム仕様、業務運用の調整 新券種の届出や規程類改正及びPR・広報の検討 ・1月～3月 仙台MaaS搭載に係る各種テストの実施 新券種の届出や規程類改正及びPR・広報の実施 【既存券種(仙台まるごとバス等)】 ・10月～ TOHOKU MaaS、仙台MaaS参画の上期検討に基づく対応					・10月～12月 令和5年度に仙台MaaS上で販売を予定する全国都市緑化仙台フェア東部周遊乗車券について、システム仕様、業務運用の調整新券種の届出や規程類改正及びPR・広報の検討・調整 ・1月～3月 仙台MaaS搭載に係る各種テストの実施 新券種の届出や規程類改正及びPR・広報の実施			
定期的な取組み	・仙台MaaS運営委員会への参加 ・令和3年度導入券種の継続販売及びPR					・令和3年度導入券種について、販売を継続するとともに、仙台MaaSポケモンスタンプラリーに参加する等PRを行った。			

【令和4年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	数値目標の達成状況
・仙台MaaS上で「120円パッ区一日乗車券」、「るーぶる仙台一日乗車券」、「るーぶる仙台地下鉄共通一日乗車券」を継続して販売した。また、実証実験の位置付けで「地下鉄一日乗車券」を令和4年9月30日～10月2日で販売したほか、令和5年度向けに「全国都市緑化仙台フェア東部周遊乗車券」の検討・調整を行った(令和5年4月～6月販売予定)。 ・TOHOKU MaaSに参画し、「仙台まるごとバス」、「るーぶる仙台一日乗車券」等を販売した。			
次年度に向けて	MaaSの搭載券種の認知度を向上させ、販売促進を行うことで、MaaSの推進を行う必要がある。		

【備考】

- ※1「MaaS」とは、スマートフォン等で目的地までのルートや移動手段、さらには街なかの飲食店・イベント等の検索・予約・決済に至るまでを一括して行える仕組みです。
- ※2「仙台MaaS」とは、仙台市が令和3年10月より実施しているMaaSです。詳しくは、下記リンクよりご確認ください。
- ※3「TOHOKU MaaS」とは、東日本旅客鉄道株式会社が東北デスティネーションキャンペーンに合わせて令和3年4月1日から令和3年9月末まで実施され、11月より再開しているMaaSです。
- [【仙台MaaS】\(外部サイトを表示します\)](#)
- [仙台市ウェブサイト「仙台MaaS推進」\(外部サイトを表示します\)](#)

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	3-2-5	分類	共通	担当課	経営企画課、輸送課、整備課、電気課、富沢管理事務所	戦略	まちづくりへの貢献	年度	R4	
取組	まちづくりとの連携・社会への貢献				個別取組	ICTや新技術の活用の検討				
概要	公共交通分野におけるICTや新技術を活用した機器やシステムについて、情報収集や実証実験への協力等を検討していきます。									
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
予定	情報収集・検討・方針決定(IC乗車券システム)									
	定期券発売所の混雑緩和のためのmatoca導入									
	スマートバス停導入検討									
	設置(2か所) 稼働状況確認(レール温度計)									
これまでの取組み状況	【自動運転技術】 令和3年度は気仙沼線BRT自動運転バス試乗会参加したほか、インターネットによる国土交通省やメーカー等のウェブサイトを開覧及び検索し情報収集を行った。									
	【IC乗車券システム】 icscaの付加価値の拡大に向けて、民間事業者等との連携を図っている。 JR東日本等が開発した地域連携ICカードに関し、仙台圏に導入する場合に想定されるさまざまな課題について、JR東日本と協議・検討を行っている。									
	【各種キャッシュレス決済】 IC乗車券を補完する各種キャッシュレス決済の可能性を調査している。									
	【スマートバス停】 令和3年度はスマートバス停(※1)の導入検討のため、メーカーと定期的に打合せを実施(先行事例のヒアリング等)したほか、スマートバス停のデモ機を借用した。									
	【遠隔監視レール温度計】 令和2年度 遠隔監視レール温度計(※2)設置の実証実験を実施した。 令和3年度 遠隔監視レール温度計を2箇所設置し、稼働状況の確認及び遠隔によるレール温度管理を開始した。									

【年度計画及び実績】

課題	【IC乗車券システム】 令和4～8年度にicscaに係るシステム更新が必要となる。他事業者の新技術対応状況を踏まえつつ、更新費用が経営を圧迫することのないよう方式等検討する必要がある。 【スマートバス停】 導入費用が高額であり、大規模な導入でないと経費圧縮効果が薄いことから、デジタル広告を掲示する等を検討する必要がある。 【自動運転技術】 交通環境が多様な市街地で実用化される路線バス車両の自動運転技術レベルの段階的な進捗を見極める必要がある。	
実施内容	【IC乗車券システム】 他事業者や各メーカーより新技術情報を収集する。 【自動運転技術】 国土交通省の動向や車輛メーカーとの情報交換等により情報収集を行う。 【スマートバス停】 スマートバス停の他都市の導入状況を調査する。 【遠隔監視レール温度計】 南北線に設置したレール温度計の稼働状況を確認し、酷暑期の効率的なレール温度管理を実施する。	【スマートバス停】 先行事業者及びメーカーの聞き取り調査を2社以上実施する。
	予定	実績
上期	【スマートバス停】 スマートバス停の先行導入業者への聞き取り調査を行う。 【各種キャッシュレス決済】 二次元コードの活用など、磁気券コストの削減に向けた調査を行う。	【定期券発売所の混雑緩和策】 例年4月頭に定期券発売所が非常に混雑することを受け、令和4年4月に二次元バーコード付整理券発行サービス「matoca(マトカ)」の試験実施を行った。 【スマートバス停】 スマートバス停の関係メーカーと打合せを実施した。関連するWebセミナーを聴講した。 【自動運転技術】 国土交通省や車輛メーカーの動向等についてインターネットなどを活用し情報収集を行った。 【各種キャッシュレス決済】 ・二次元コードの活用など、磁気券コストの削減に向けた調査を実施中。 ・9月30日～10月2日の3日間において、仙台MaaSで地下鉄一日乗車券を販売し、二次元コードによる改札の実証実験を行った。
下期	【スマートバス停】 導入の検討、局内整理の結果を踏まえて、来年以降の準備を行う。	【スマートバス停】 スマートバス停の関係メーカーと打合せを実施した。関連するWebセミナーを聴講した。 【自動運転技術】 国土交通省や車輛メーカーの動向等についてインターネットなどを活用し情報収集を行った。
定期的な取組み	【IC乗車券システム】 ・仙台IC乗車券推進協議会総会及び検討会での情報収集 【スマートバス停】 ・国動向確認、スマートバス停導入事業者及びメーカーへの調査 【遠隔監視レール温度計】 レール温度計の稼働状況の確認及びレール温度の監視	【IC乗車券システム】 ・仙台IC乗車券推進協議会総会及び検討会での情報収集 【スマートバス停】 ・国動向確認、スマートバス停導入事業者及びメーカーへの調査 【遠隔監視レール温度計】 レール温度計の稼働状況の確認及びレール温度の監視

【令和4年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	・4月の定期券発売所混雑緩和を目的とし、二次元バーコード付整理券発行サービス「matoca(マトカ)」の試験実施を行い、令和5年度以降も継続して実施することとした。 ・スマートバス停導入検討のために、関係メーカーとの打ち合わせを実施した。	数値目標の達成状況	【スマートバス停】 先行事業者及びメーカーの聞き取り調査を2社実施した。
次年度に向けて	【スマートバス停】 引き続きスマートバス停導入について費用対効果等を鑑み検討していく。 【遠隔監視レール温度計】 引き続き南北線に設置した遠隔監視レール温度計により、酷暑期の効率的なレール温度管理を実施する。				

【備考】

※1「スマートバス停」とは、デジタルサイネージや電子ペーパーにバスの運行時刻表だけでなく、その他の告知文や広告などを遠隔操作によりリアルタイムに表示できるバス停のことです。

※2「リアルタイム遠隔監視タイプのレール温度計」については、国家戦略特区の特区制度の取り組みとして、令和2年度に実証実験を実施しています。詳しくは、下記のリンクより実証実験の概要を紹介する情報紙「仙台特区 Vol.9」をご確認ください。
[仙台市ウェブサイト](#) [【仙台特区 Vol.9発行】](#) [\(外部サイトを表示します\)](#)